



知っているようで知らない“とびひ”

「とびひ」は「飛び火」とも呼ばれ、火事の火の子が次々と飛んで燃えうつるように、**水疱が全身にどんどん広がっていく皮膚の病気です。**身近な病気ですから、何となく症状は知っているものの、詳しいことになると知らない方も多いのではないのでしょうか？そこで今回は、これからの季節に増える「とびひ」についてお話させていただきます。

“とびひ”の正式名称は？

日頃、聞き慣れている「とびひ」、実はこれは正式名称ではありません。「とびひ」の医学的な名称は「**伝染性膿痂疹**」と言います。

実は2タイプある“とびひ”

ひとくちに「とびひ」と言っても、2つのタイプに分かれています。1つは、**水ぶくれができる「水疱性膿痂疹」**。そしてもう1つは、**かさぶたができる「痂皮性膿痂疹」**。この2つはそれぞれ**原因が異なり、「症状」や「感染しやすい季節」「かかりやすい年齢」も違います。**それでは、詳しく見てみましょう。

タイプ1「水ぶくれ」ができる水疱性膿痂疹

「とびひ」と呼ばれているのは、主にこのタイプです。**水ぶくれが膿をもち、強いかゆみ**が特徴。掻いた手で体の他の部分を触ると、症状が広がっていきます。虫さされや汗疹がきっかけになりやすい夏と7歳未満の乳幼児に多くみられるタイプです。



タイプ2「かさぶた」ができる痂皮性膿痂疹

水疱性膿痂疹と同様に膿をもった水ぶくれができますが、こちらは**皮膚に厚いかさぶた**が表れます。また、**発熱やリンパ節の腫れ**などを伴うこともあります。1のタイプとは異なり、**季節や年齢に関係なく**かかってしまいます。



“とびひ”を防ぐ日常ケア 1・2・3!

皮膚にできた小さな傷に、細菌が入り込むことで感染・発症する「とびひ」。日頃のちょっとした心がけで、予防をしましょう!

1 患部を掻かない

虫にさされた所や汗疹などの患部は、**掻いて傷をつけないように**しましょう。**爪を短く切っておく**のも予防のひとつです。

2 入浴で皮膚を清潔に

原因となる細菌は、健康な人の体にいる常在菌です。毎日の入浴で**皮膚を清潔にして、細菌を減ら**しましょう。

3 タオルを共用しない

タオルや衣類は同じものを使用せず、**各自、別のものを使用**しましょう。共用すると「とびひ」がうつる場合があります。

虫さされなど“肌トラブル”が多くなりがちな季節です。つい掻いてしまい「とびひ」にならないように気をつけて下さいね。また、**アトピー性皮膚炎の方は要注意です。**アトピーの人は外部刺激に弱く、「とびひ」にかかりやすい傾向にあります。



クイズのこたえ

2 大阪府

日本初のブラシ会社が大阪に誕生して以来、大阪はハブラシを含むブラシ製造のメッカになりました。今でも**国産ハブラシの5割以上が大阪で生産されています。**(全国のハブラシ製造工場の約4割が大阪府八尾市にあります。)